

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問調査)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	16人	算数	16人	理科	16人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	19人	算数	19人	理科	19人
------	----	-----	----	-----	----	-----

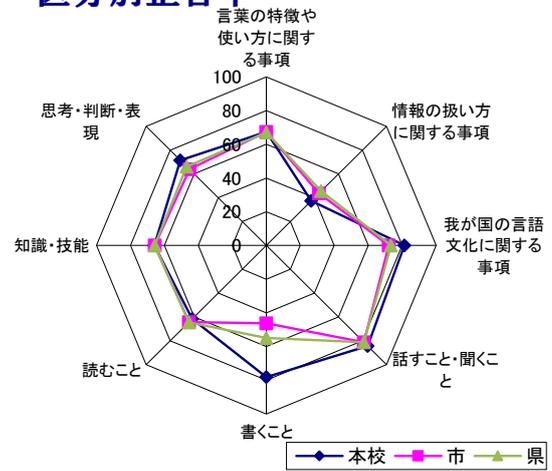
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	67.4	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	37.5	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	81.3	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	84.4	81.2	81.2
	書くこと	78.1	46.2	54.9
	読むこと	61.7	64.3	64.5
観点	知識・技能	65.9	65.7	65.7
	思考・判断・表現	71.5	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

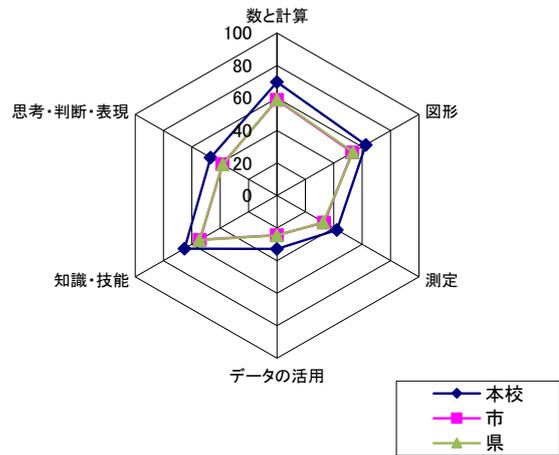
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は市や県の平均とほぼ同じであった。 ○主語と述語の関係を問う設問では、正答率が81.3%と市や県の平均を大きく上回った。 ●漢字の読みについては、全ての設問で市の平均を下回った。 ●反対の意味をもつ言葉を捉える問題に課題が見られる。	・教科書の音読や漢字の読み書きの練習を習慣化し、基礎基本の定着を図る。また、漢字の意味だけでなく使い方も丁寧に指導し、生活の中でも積極的に習った漢字を使いこなせるように指導していく。 ・類義語や反対語、同音異義語等を扱いながら、語彙を豊かにする学習の充実を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市や県の平均より低かった。 ●例文で用いられた語句の適切な意味を選ぶ設問では、正答率が37.5%と市や県の平均を大きく下回った。	・国語辞典の使い方を再度確認するとともに、一人一台端末ばかりに頼ることなく、国語辞典を手元に置いてすぐに調べられるようにしたり、付箋を貼って調べることに意欲付けを図ったりする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市や県の平均より高かった。 ○漢字の「へん」や「つくり」の理解を問う設問では、正答率が81.3%と市や県の平均を大きく上回った。	・新出漢字等の学習において、反復練習に留めることなく、漢字の成り立ちや漢字そのものが表す意味などに関心をもてるように指導の工夫を行い、児童の主体的な学びを促し、漢字への興味を高める。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市や県の平均よりやや高かった。 ○相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す設問の正答率は100%であった。 ●司会者の話し方の工夫を捉える設問や司会者の発言として適切なものを選ぶ設問では、市や県の平均をやや下回った。	・話し手が何を伝えたいのか、話の中心を捉えることができるよう、「話の聞き方」について継続して指導していく。 ・話を聞くときに、共通点や相違点に着目しながら話を聞く習慣を身に付けさせる。 ・様々な教科で話し合う機会を増やすことで、自分の意見を伝えたり、友達の考えを聞いたりする時間を設ける。
書くこと	平均正答率は市や県の平均を大きく上回った。 ○指定された長さで文章を書いたり、自分の考えを明確にして文章を書いたりする設問では、正答率がどちらも87.5%と市と県の平均を大きく上回った。	・授業中の振り返りや日記など、日頃から書く習慣を身に付けさせるとともに、授業や宿題等で字数を制限した問題に取り組ませることで更なる定着を図る。
読むこと	平均正答率は市や県の平均よりやや低かった。 ○登場人物の行動の理由について、叙述を基に捉える設問では、正答率が87.5%と市や県の平均を大きく上回った。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問では、50%と市や県の平均を大きく下回った。	・登場人物の心情や行動を基に場面を想像したり、気持ちの変化を捉えたりすることができるよう指導していく。また、場面ごとに要約を行い、大まかな内容を捉えられるようにする。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.8	58.9	59.2
	図形	62.5	53.0	53.7
	測定	42.2	33.1	32.6
	データの活用	32.8	24.4	24.6
観点	知識・技能	65.2	54.3	54.7
	思考・判断・表現	46.9	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

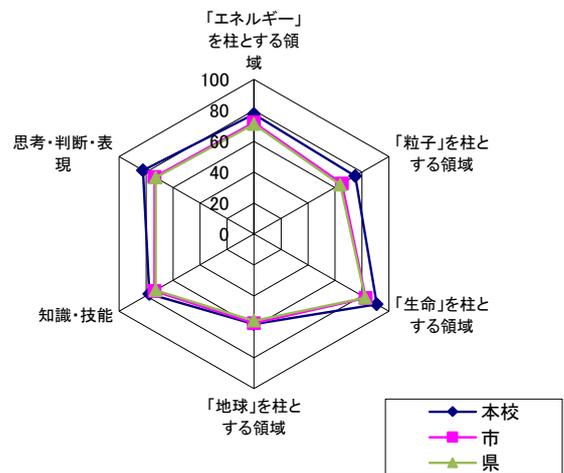
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。</p> <p>○小数のしくみや表し方として正しいものを選ぶ問題の正答率は、100%であった。</p> <p>○数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題の正答率は、87.5%で市や県の平均より30ポイント以上高かった。</p> <p>●$2けた \times 1けた = 3けた$の計算問題や式の意味を正しく捉えて言葉で説明する問題の正答率は、市や県の平均より低かった。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習の中で、計算ドリルやAIドリルなどを活用しながら繰り返し計算練習等を行い、基本的な学習内容の更なる定着を図るようにする。</p> <p>・計算の仕方について、形式的に覚えるだけでなく、式の意味や計算の過程を説明するような活動を取り入れていく。</p> <p>・テープ図や数直線、具体物などを用いて数量の関係を表したり、数の処理の仕方を説明する機会を多く設けたりしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。</p> <p>○球の半径を利用して箱の縦の長さを答える問題の正答率は、市や県の平均より9ポイント以上高かった。</p> <p>●円の性質を利用して正三角形を作図する問題の正答率は、市や県の平均より10ポイント以上高かったが、正答率は50%と低く、作図に課題が見られる。</p>	<p>・図形の学習では、デジタル教科書等のICTを活用して視覚的に捉えながら図形の性質の理解を深める。</p> <p>・作図の学習では、図形の性質を生かした作図の仕方について考察したり、コンパスや定規などを使用して図を描く際には個に応じた丁寧な指導を行ったりすることで、作図の仕方の理解を図っていく。</p>
測定	<p>平均正答率は、市・県より高い。</p> <p>○はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題の正答率は、県の平均より23ポイント以上高かった。</p> <p>●地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求める問題の正答率は、県や市の平均より低かった。</p>	<p>・学校生活の中で、身近にあるものの重さを予想したり、さまざまな種類のはかりを用いて目盛りを読む活動を取り入れたりすることで、重さの感覚を養っていく。</p> <p>・様々な問題場面の数量を読み取ったり、分かったことを図で表すなどの数学的な表現活動を多く取り入れたりすることで、問題を適切に解決する力を養っていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。</p> <p>○適切な棒グラフから、示された値を読み取る問題の正答率は、市や県の平均より高かった。</p> <p>●示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する問題の正答率は、市や県より高いが、18.8%と低かった。</p>	<p>・社会科や理科など他の教科においても、適切なグラフを用いて表現する活動やそのグラフを選んだ理由などを説明する活動を取り入れていく。</p> <p>・目盛りの付け方に着目した授業を展開することで、折れ線グラフや棒グラフの読み取りが正しく身に付けられるようにする。</p>

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	77.5	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	75.0	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	91.0	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	58.3	57.7	56.2
観点	知識・技能	77.6	73.8	72.8
	思考・判断・表現	82.3	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より5.4ポイント上回っている。</p> <p>○すべてにおいて2ポイント以上上回っている。</p> <p>●実験の結果をもとに日光を集めたところの大きさを選ぶ問題では、光を集めると火が付くことは理解しているが、明るくなることを理解していない児童が多い。</p>	<p>・太陽の光を虫眼鏡で集める実験を行う際、光を集めると火が付く現象に注目しすぎてしまうため、光が集まると、高温になり火が付くことと明るくなることを定着させる必要がある。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より9.8ポイント上回っている。</p> <p>○体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える問題では、市の平均より20ポイント上回っている。</p> <p>●体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える問題では、体積が同じであっても、重さが変わることを理解しているが、「体積」という言葉を書くこと</p>	<p>・ものの重さについて、体積が同じ物質の重さをはかる実験を行い、その実験のまとめから体積が同じでも、物質によって重さはかわる考察を導き出せるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より8.2ポイント上回っている。</p> <p>○昆虫の体のつくりの正答率は、100%であった。</p> <p>●虫眼鏡の使い方の正答率は、他の問題に比べて正答率が低い。</p>	<p>・目的をもって昆虫や植物の観察を実施し、虫眼鏡を使って観察をする。その際、動かせるものと動かせないものによって使い方が異なることを実際に行い定着させる。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均よりやや上回っている。</p> <p>○方位磁針の正しい使い方を選ぶ問題では、市の平均より9ポイント上回っていた。</p> <p>●全体的に正答率が低く、太陽の位置と影の関係を理解していない児童が多いと考えられる。</p>	<p>・影と太陽の位置の実験を行う際、実際に方位磁針を使って、方角を確かめ、使い方の定着を図る。</p> <p>・学習内容をまとめた後、実際に影おこを行い、既習内容の応用を考える場をつくる。</p>

宇都宮市立清原北小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

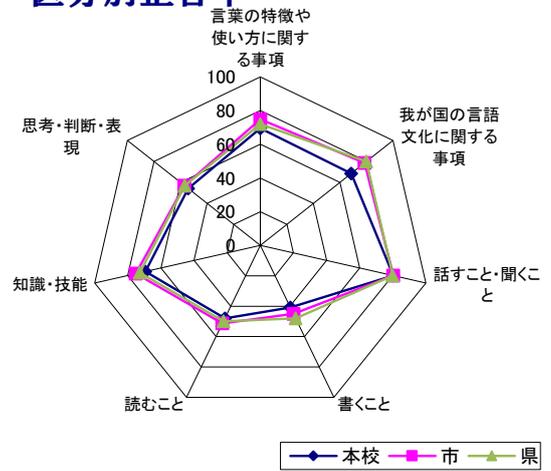
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「学校の宿題は自分のためになっている」という質問に、「なっている」と肯定的に答えた児童が100%であった。
- 「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」という質問に「はい」と答えた児童が市の平均より10.6ポイント上回っていた。
- 国語・社会・理科の学習が将来のためになっていると肯定的に回答した児童が、市の平均より上回っている。
- 本校の多くの児童が勉強に関して、肯定的な回答をしている。
- 朝食を食べてきていると肯定的に回答している児童が100%と多かった。
- 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」では、「いいえ」と答えた児童が市の平均より16.6ポイント高く、発表が苦手な児童が多かった。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強している」では、していないと答えた児童が多く、半分の児童が否定的な回答をしている。
- 勉強に関して一定数否定的な児童がいる。そのため、勉強が楽しいと思える教材研究や課題を考える必要がある。また、目的をもって家庭学習に取り組ませるために、家庭学習の手引きをより活用する必要がある。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	69.5	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	68.4	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	80.3	80.4	80.0
	書くこと	40.8	45.1	48.0
	読むこと	48.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	69.4	75.2	72.8
	思考・判断・表現	54.3	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

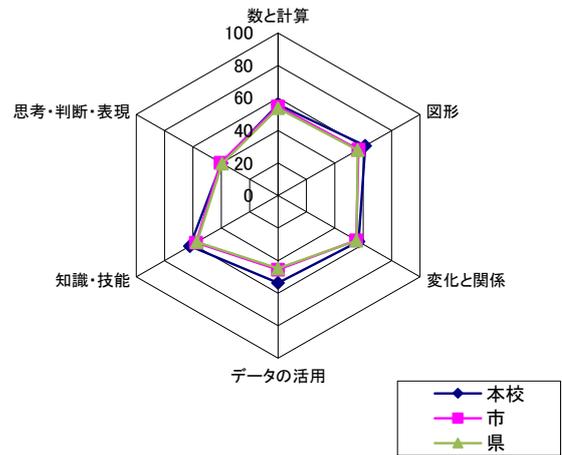
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より5.3ポイント低い。</p> <p>○漢字の読みや連用修飾語の正答率は、市の平均より高い</p> <p>●漢字の書きや連体修飾語、熟語の漢字の組み合わせについての問題などの平均正答率は、市の平均より低い。</p>	<p>・新出漢字を学ぶ際、漢字のもつ意味について話題にしたり、既習の漢字を使った熟語を作らせたりと工夫して指導し、定着を図る。また、送り仮名も含めて漢字練習等で練習させる。</p> <p>・修飾語の学習や読み取り問題において、文構造について考えさせる時間をもつ。</p>
情報の扱いに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	<p>●慣用句の意味を理解し、自分の表現に用いる問題については、市の平均より10.2ポイント低い。</p>	<p>・朝の学習等の時間に多様な慣用句にふれ、使い方を知ったり、日常生活の中で活用したりすることにより、言葉への関心を高めていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○話し手が伝えたいことの内容を捉える問題や、相手が話した内容を正しく聞き取る問題は、市の平均より高い。</p> <p>●話し手の工夫を捉える問題や、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめて書く問題は、市の平均より低い。</p>	<p>・話し合い活動の中で出てきた考えの共通点や相違点に着目するだけでなく、相手の意見がなぜ違うのかという理由を最後まで聞き、相手の意見との違いを理由をつけて説明できるような場面を設定する。また、答えを2つ選ぶ設問に対して、一つしか選んでいない児童も見られるため、設問を最後までしっかりと聞くことができるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より4.3ポイント低い。</p> <p>○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>●指定された長さで文章を書く問題や、内容の中心を明確にし、事実を伝える文章や自分の考えを書く問題は、市の平均より低い。</p>	<p>・字数や段落の構成を設定し、条件に合った文章を書く活動を多く取り入れることにより、書く力を身に付けさせる。また、一人一台端末を活用してプレゼン制作など、自分の考えを書く活動に数多く取り組ませる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より3.3ポイント低い。</p> <p>○説明文の内容を読み取る問題や、段落の相互関係を捉える問題や分かったことを共有する問題は、市の平均より高い。</p> <p>●物語文の場面の叙述を捉える問題や、登場人物の気持ちの変化を具体的に想像する問題や、読んで感じたことを共有する問題については、市の平均より低い。</p>	<p>・物語文の登場人物の気持ちの変化を表す言葉や行動に線を引きながら読むなど工夫して内容を捉える活動を充実させる。また、読み取った内容について、考えを共有し、議論する時間を設ける。</p>

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.0	54.9	53.7
	図形	61.4	56.6	56.1
	変化と関係	56.6	55.1	55.2
	データの活用	53.7	45.5	44.8
観点	知識・技能	62.2	57.8	57.2
	思考・判断・表現	39.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

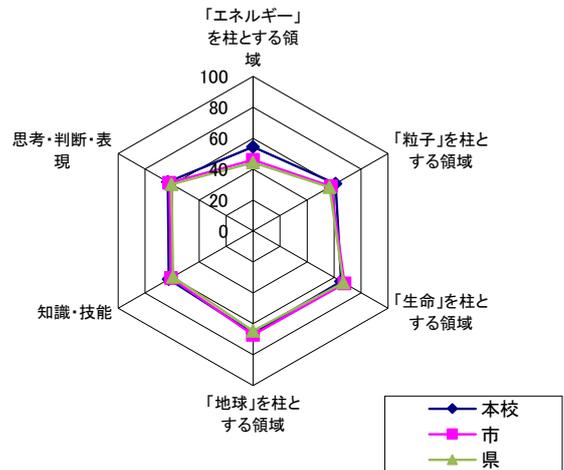
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。</p> <p>○帯分数－真分数の計算で、市や県の正答率より約20ポイント高い。小数第一位÷整数の正答率は約15ポイント以上高い。</p> <p>●3ケタ÷2ケタの計算や、目的に応じた見積りの考え方、除法の性質を理解したくふうに付いては、市や県の正答率より10ポイント以上低かった。</p>	<p>・数の多い計算や文章問題に対して無回答の割合が多かったため、日頃から難しい計算に触れたり、文章文章題に取り組みせたりすることにより、抵抗感なく問題に取り組めるようにしていく。</p> <p>・計算の仕方が着実に身に付くよう、朝の学習等を利用して、再度復習させる。</p>
図形	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。</p> <p>○180度より大きい角の求め方では県の正答数より10ポイント以上、平行四辺形の作図では市・県の正答数より30ポイント以上とかなり高かった。</p> <p>●立方体の展開図において、県・市の正答率より10ポイント以上低かった。</p>	<p>・立方体の展開図では実物を使い、平面と立体とを結び付けられるようにする。</p> <p>・図の特徴や複数の説明を読み取り、課題について筋道を立てて考えながら、練習問題に取り組ませる。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係では、市・県の正答数より20ポイント以上高かった。</p> <p>●割合のしくみの問題では、市・県の正答数より20ポイント以上低かった。</p>	<p>・割合のしくみでは、具体例を出したり、具体物を用いたりしながら、何を基準にしているのかを考えられるようにする。</p> <p>・授業の中で、思考過程やまとめを行う段階で自分の言葉を使って説明させたり、記述させたりする活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・フォローアップワークシート等を活用して、習熟を深める。</p>
データの活用	<p>平均正答率は市・県の平均より高い。</p> <p>○表の数が何の数を表しているかを答える問題では、市・県の正答率より20ポイント以上高かった。</p>	<p>・引き続き、基礎・基本を押さえた指導をするとともに、文章問題に慣れ、他の教科で折れ線グラフや棒グラフが出題されたときも想起、発展的に考えられるようにする。</p>

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	54.4	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	61.1	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	65.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	66.1	67.2	64.6
観点	知識・技能	62.4	60.8	59.2
	思考・判断・表現	63.2	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より8.4ポイント高い。</p> <p>○簡易検流計の針のふれ方から分かることを短答式で答える問題では、市の平均より21.3ポイント高い。</p> <p>○電流の同じ大きさの回路を選択して答える問題では、市の平均よりも11.5ポイント高い。</p> <p>●並列つなぎの名称を答える問題では、市の平均よりも7.7ポイント低い。また、並列・直列以外の名称で答えた児童が21.1%いた。</p>	<p>・理科の用語を正しい漢字で覚えられるように指導する。</p> <p>・正答率が低かった「電気のはたらき」について、関連した単元で知識の復習して定着を図る。また、AIDリルを活用して多様な課題への理解を深めさせる。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より3.4ポイント高い。</p> <p>○水のあたたまり方について仮説が正しければ実験結果がどうなるかを答える問題では、市の平均よりも22.4ポイント高い。</p> <p>○湯気について正しく説明しているものを選択して答える問題では、市の平均よりも15ポイント高い。</p> <p>●閉じ込めた空気を押したときの手ごたえについて答える問題では、市の平均を12.2ポイント下回った。</p>	<p>・閉じ込められた空気や水のはたらきの内容を復習し定着を図る。</p> <p>・学びを継続するために、水や空気、金属の性質について学習して分かったことが、生活のどのような場面と関連しているのかを意図的に指導する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より2.5ポイント低い。</p> <p>○骨と関節の名称を答える問題では、市の平均よりも7.1ポイント高かった。</p> <p>●季節の順にならべたイチョウの記録を記号の中から正しく選ぶ問題では、市の平均よりも12ポイント低かった。</p> <p>●腕をのばした時の筋肉の様子について記号の中から正しく選ぶ問題では、市の平均よりも11.1ポイント低かった。</p>	<p>・自然豊かな学校の特色を生かし、学校のまわりの生き物について話題にするなど、普段から生き物に関心をもたせ正しい成長の過程を指導する。</p> <p>・筋肉の伸び縮みについては、模型やデジタル教材を活用し、仕組みを正しく理解させる。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より1.1ポイント低い。</p> <p>○雨の日の気温の変化について、正しいグラフを選び、その理由について答える問題では、市の平均よりも19.6ポイント高かった。</p> <p>●水の流れについて身近な出来事と関連付けて答える問題では、市の平均よりも14.9ポイント低かった。</p> <p>●星について問われている問題では、すべての問題で市の平均を下回った。特に星を観察した結果から分かる星の色の違いについて答える問題では、市の平均よりも11.3ポイント低かった。</p>	<p>・星の動きや光については、観察を行うように促すなど学習内容を振り返りながら指導を行い、知識の定着を図る。</p> <p>・水の流れについては、学習したことと日常生活が関連付けられるように、授業等で意図的に話題にし、理解を深める。</p>

宇都宮市立清原北小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題の量はちょうどよいと思う。」「学校の宿題は、自分のためになっている。」の肯定割合はともに100%であるが、「学校の宿題は、やりたくなる内容だ。」の肯定割合は31.6%と低い。宿題の内容や出し方を工夫し意欲的に取り組めるようにすることで、さらに宿題の効果を高めていけるように指導を継続していく。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の肯定割合は79.0%で、県の平均より10.5ポイント上回っている。今後も、児童の知的好奇心を大切に、自分たちで疑問を解決していけるような活動の場を多く設ける。

○「家の人は、あなたが褒めてもらいたいことを褒めてくれる。」「自分は家族の大切な一員だと思う。」の肯定割合はともに100%であった。児童一人一人の良さを伸ばしていけるよう、家庭との連携を図っていく。

○「歴史上の人物やできごとを扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ。」の肯定割合は73.7%で、県の平均より14.0ポイント上回っている。好きな気持ちを維持できるような活動の場を設定しながら、次年度の歴史の学習へとつなげていく。

○「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている。」の肯定割合は89.5%で、県の平均より13.8ポイント上回っている。生活の中で理科の学習とのつながりを意識できるような指導を継続していくとともに、他教科においても生活の中で生かせる視点を提示しながら学習指導を行っていく。

●「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている。」「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る。」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定割合は、それぞれ47.4%、21.1%、52.6%と、県の平均を大きく下回っている。また、「学習塾に通っていない」と回答した児童が79.0%と県の平均を大きく上回っている。学習意欲の低い児童が多く見られ、意識改善を図る必要がある。分かる喜びを味わえるような授業を工夫するとともに、家庭学習に取り組みやすいよう、学習例を示したり、意欲を高められるような働きかけをしたりする。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定割合は36.9%と県の平均を11.4ポイント下回っている。グループや教室全体と段階的に発表できるような場の設定を行ったり、全校集会でのスピーチと関連付けたりして、自信を高める指導を行っていく。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」の肯定割合は31.6%と県の平均を34.6ポイント下回っている。学級内で児童が活躍する場を多く設け、また、その活躍を認め合う活動を取り入れ、自己肯定感を高める指導を行っていく。

●「社会の授業の内容はよく分かりますか。」「社会の学習は好きですか。」の肯定割合は、それぞれ52.6%と47.4%で、県の平均を大きく下回っている。意欲的に取り組めるような教材を工夫し、分かりやすい授業づくりを行っていく必要がある。

宇都宮市立清原北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や成就感を高める授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> めあての提示と見通し、学習の振り返りを徹底した授業づくり 児童の意欲を喚起するデジタル教材やタブレット等のICT機器の効果的な活用 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教材や板書、授業展開の工夫 	「授業の中で、目標が示されている。」の肯定割合は、5年生が89.5%、4年生が93.8%であった。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」では、5年生が57.9%、4年生が81.3%であった。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」では5年生は57.9%、4年生は56.3%だった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 友達の前で自分の考えや意見を発表することを苦手と感じている児童が多い。 自己肯定感が低い児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動の充実 活躍の場の設定 よさを認め合う活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会や集会のスピーチ、各教科での話し合いの時間の充実を図ったり、児童が話したくなるような課題を設定したりする。 係活動や委員会活動における役割を明確にしたり、行事における児童の役割を全員に割り振ったりして、活躍の場を設定する。また、「な～べ～カード」や帰りの会を利用して、児童同士の称賛の時間を設ける。